

## 未完成

第15期 穂苺 華子

「小野ゼミ第15期生は仲が悪い。」とよく先輩方に言われることが多かったが、私たちは、入会した4月から毎日、南校舎のグループ学習室（以下、グル学）に集まり、警備員に退出するよう叱られるまで残って発表資料を作っていた。皆、授業はそっちのけで朝から晩までグル学に居るため、お腹がすくとよく大学の南門を出てすぐの「井丸」という店に向かい、テイクアウトで540円の海鮮丼を買って、グル学で食べていた。そんな習慣があったからか、論文のテーマ探しに奔走していた6月に、井丸の全メニュー100種類の海鮮丼を食べつくすというプロジェクトを始めた。プロジェクトを行う際には、何の海鮮丼を食べたかがわかるように、海鮮丼とそれを食べる人を映した自作のスタンプを集めた。いわば「井丸スタンプラリー」である。「井丸スタンプラリー」は、ゼミの本業である論文執筆活動の進捗の遅さとは裏腹に、着実にスタンプが集まった。その数、93杯。第15期生の中で一番海鮮丼を食べたのが、合場君の32杯で、私はたったの13杯だった。（ちなみに、私のおすすめの海鮮丼は、かにみそ・ウニ・エビなどが入った函館丼で、食べた時に「非の打ち所がない」と思った。）

三田祭・インゼミを終え、時は過ぎ、4年の7月。突然、井丸が閉店した。閉店を知らせる井丸からのLINEの通知。

「いつも夜ご飯を買いに来てくれる慶大のマーケティングゼミの学生たち、何かコラボしたかったなあ。」という店主からメッセージがあった。その時、私は、完全



井丸スタンプラリー（一部抜粋）

に忘れられていた未完成の「井丸スタンプラリー」を思い出すとともに、小野ゼミでの論文執筆活動を陰ながら支えていた存在が1つ無くなってしまったのだなと思った。



江の島にて  
(左から、福田,著者, 小野先生, 野口)

兎にも角にも、小野ゼミ第15期生は、未完成な奴らばかりであった。仲良しコンビである、野口裕貴。福田笙一。彼らと有志企画KUBICで一緒だった時、良いプランを案出できず、小野先生に相談に伺うために江の島までついていったことは記憶に新しい。相談を終え、苦勞して完成させたプラン案は、予選を通過しなかったが、ア

イデアを形にすることの難しさを学べたことは、きっと今後活かすことができるであろう。いや活かそう。つぎに、手束健人。市川哲也。手束は、天下の灘高校、市川は、開成高校出身の高学歴コンビであるにもかかわらず、めっぼう論文を執筆することに弱かった。卒論の添削を中止される度に、手束の汗がダラダラ止まらなくなる姿、市川の口を開けてぼかーん( ° ㇿ ° )とする姿を何度見たことであろうか。同期で卒論の添削中止された回数NO.1とNO.2を、彼らが争ったといっても過言ではない。そして、竹田光志。竹田は、ゼミ活動で多忙を極めると、顔色が悪くなるのだが、体力の消耗を補おうとモンスターエナジーを摂取するため、飲む前よりも顔がドス黒くなっていった。論文の執筆時には、風邪を引き、OB・OG



千葉駅改札前に酔っぱらって寝そべる15期ゼミ長

会誌の編集時には、インフルエンザに罹患した。頑張りすぎると体調を崩す竹田は、もはやお約束である。最後に、ゼミ長の合場将貴。合場は人一倍責任感が強いが、ゼミ活動を頑張った分、納会や懇親会で、溜まった疲れを酒で晴らすところがある。この2年間で、何度も合場を介抱したため、彼の眼が右に左にゆらゆらし始めたら完全に酔って記憶を無くしているという習性まで心得た。OB・OG会では、合場は酔ったまま鞆をおいて会場から姿を消し、千葉県四街道市物井駅まで寝過ごした。偶々千葉駅が最寄であった私が、必死で真夜中に沢山のホテルに電話してお部屋を準備した。もし、真冬に寝床が無かったら物井駅でそのまま野垂れ死んでいたかもしれない。酒に頼りすぎるのは重々気を付けてほしい。

以上の男6人と、女1人の私を含む7人で2年間、小野ゼミで活動してきた。我々第15期生が過ごしたゼミ活動は、未完成であった。予選の通過すらできなかったKUBIC、3か月もテーマが決まらなかった三田祭論文、予選を突破し上位入賞を期待するも叶わなかった神戸マケコン…。数々の論文やビジコンでの実績を残した歴代の素晴らしい先輩に対し、我々第15期生は、輝かしい実績は残せなかった。4年生になっても、我々は期限通りに、卒論集を完成させることはできなかった。しかし、未完成のゼミ活動の裏には、「井丸スタンプラリー」のような地道な活動や、卒論が書き進まず困っている同期や論文執筆活動とゼミの運営を両立出来ず苦勞している後輩を見ては、出来る限り手を差し伸べてきた仲間への心配りや一生懸命さが沢山あったように思う。2年間、日の目を浴びることのなかったゼミ活動を諦めずに努力し取り組み続けた6人の同期に、せめて最後だけでも、賛辞を贈りたい。



初詣、浅草神社にて  
(左から、著者、手束、市川、小野先生、合場、福田、野口)